

小川正人教授退職記念号刊行によせて

小川正人教授が2008年3月末日をもって東京大学を退職されることになりました。1993年4月の教育学部・教育行政学研究室ご着任以来、15年間の長きにわたりご指導をいただきましたことに研究室一同心よりお礼を申し上げます。

小川先生の学術面でのご活躍につきましては、いまさら申し上げるまでもありません。中央教育審議会をはじめ国及び地方自治体の審議会委員を歴任され、教育改革の現実に深く係わりながら、教育行政学、教育政策研究の最前線を切り拓いてこられました。政治学、行政学などの隣接社会科学との接点を重視され、理論的・実証的研究の成果を次々に発表して学界をリードされてきました。この間、小川先生のご指導を仰ごうと東大だけでなく他大学からも研究室の門を叩く者があとを絶たず、数多くの後進を育ててこられました。

学内行政面では、2004年4月に学校教育高度化専攻が設置され、教育行政学研究室のメンバーは学校開発政策学コースに移りましたが、小川先生の存在なしには新コースの円滑な立ち上げはできませんでした。初代専攻長として、新専攻全体の運営にも一方ならぬ御尽力をいただきました。私たちはいつも、どんなに忙しくても笑顔を絶やさずに接してくださる小川先生の優しさと誠実さに励まされてきました。

ご退職にあたり、記念論集出版や大学、学会関係者をお招きしての記念行事を行わせていただきたいと申し上げましたが、小川先生は研究室メンバーの負担を慮られて固辞されました。私たちは、小川先生の謙虚なお人柄に改めて感銘を受けながらも、十分なことができず申し訳なさでいっぱいです。3月7日（金）には小川先生から直接指導を受けた者が集まって講義をうかがい、懇談の場を持ちましたが、退職記念行事で小川先生とお話できることを心待ちにしていた方々が他にもたくさんいらっしゃいました。この場をお借りして、お詫び申し上げます。

小川先生は4月から放送大学教授に転出されますが、当分の間、客員教授としてご指導を仰ぐことができることになりました。これは私たちにとって落胆のなかでの喜びです。小川先生から頂戴した学恩に少しでもお応えできるよう、研究室一同、努力してまいりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、小川正人先生の益々のご健康とご活躍を祈念するとともに、大学、学会関係の皆様には引き続き研究室へのご支援をお願いして、小川正人教授御退職記念号刊行の辞としたいと存じます。

2008年3月

研究室を代表して 准教授 勝野正章